

Title	藤田亮策講師の訃；史學科創立五十周年記念祝賀會；史學科創立五十周年記念講演會； 第八回早慶連合史學會；三田史學會例會；大學院修士課程卒業論文題目；東洋史談話會； 民族學研究會
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1961
Jtitle	史学 Vol.33, No.3/4 (1961. 4) ,p.192(450)- 195(453)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19610400-0192

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙 報

藤田亮策講師の訃

本塾文學部講師藤田亮策先生には昨年もおしつまつた十二月十二日午前四時三十分狭心症のため奈良縣郡山市の御宅で急逝されました。享年六十八。

去る昭和二十二年四月以來、考古學の講義を擔當され、後には博物館學並に大學院の考古學特殊研究を講ぜられ、大小の發掘調査をも指導されて、われわれに親しまれた先生を突如として失つたことは、まことに遺憾にたえません。

ここに謹んで哀悼の意を表し、併せて御冥福を祈る次第であります。

史學科創立五十周年記念祝賀會

明治四十三年本塾大學史學科が創設されてから五十周年にあたるので、昭和三十五年十月二十一日、赤坂のホテル・ニュー・ジャパンに史學科關係者、卒業生等が集つて記念祝賀會を催した。出席者百七十余名にのぼり、きわめて盛會であつた。今宮新氏の

司會で、三田史學會會長松本芳夫氏の挨拶ののち、本塾常任理事氣賀健三氏、來賓早稻田史學會々長十河祐貞氏、及び卒業生代表加藤恭太郎氏の祝辭に續き、史學科創立當初から引續き教壇に立たれている伊木壽一氏の回想談が一同の興味と感銘をよび起し、終始なごやかな雰圍氣に包まれて九時過散會した。

史學科創立五十周年記念講演會

昭和三十五年十月二十二日、三田三〇一番教室において開かれ、文學部長松本信廣氏の挨拶ののち、かつて本塾史學科で教鞭をとられた柳田国男氏の「島々の話」と題する記念講演が行われた。高齡の柳田先生が特に本會のために、よろこんで演壇に立たれたことは感謝にたえない。その速記は追つて本誌を飾ることにしよう。

そののち、學生諸君は七番教室に集り、史學科先輩諸氏より回顧談をうかがつた。

第八回早慶連合史學會

今回は本塾側の順番に當つてゐるので、昭和三十五年十一月十二日、三田三〇一番教室で左の通り開催された。

〔研究發表〕

フランシスコ會のグレゴリオ十三世小勅書廢止問題

大唐創業起居注考

ナバテア人のペトラ定住の問題

メソポタミアにおける政治的社會の成立

〔公開講演〕

東南アジアの旅より歸つて

蝦夷研究に於ける考古學の役割について

終了後は例によつて兩校出席者が夕食を共にし、歡談に時を過した。

三田史學會例會

第四六四回例會 新入生歡迎會

昭和三十五年五月二十二日

於一番教室

第四六五回例會

昭和三十五年九月二十九日

於三十二番教室

インドネシアの旅

第四六六回例會

昭和三十五年十二月七日

於二番教室

アメリカから歸つて

第四六七回例會 卒業論文發表會

森岡敬一郎氏

昭和三十六年一月三〇日、三十一日 於三十一番教室
當日發表された卒業生諸君の論文題目は次の通りである。

國史專攻

チャシ・館の研究

伎樂考

——佛教的要素の探究を中心として——

古代東北に於ける貢馬の問題

鎌倉幕府成立時期について

——論爭史を中心として——

南北朝時代の文獻に現われた

新田義貞とその一族について

——特に太平記を中心として——

華道大成に關する一考察

——成立期の立華を中心として——

樂市樂座政策の意義

田沼意次の經濟政策に關する一考察

吉宗の將軍職繼承の事情について

農村に於ける五人組制度について

寺小屋について

飛脚に關する一考察

京都守護職松平容保の政治的位置

——將軍上洛問題・八月十八日の政變を中心として——

町田公雄

西田宏子

小池登美子

山本 實

堀口正義

吉田俱子

大塚欽司

大谷和子

浦井正明

今城 傳

友枝洋一

加納伸雄

野口 誠

文久三年末—元治元年に於ける伊達宗城の位置 吉田友彦

——薩摩藩的會議論との同調時期について——

函館戦争に關する一考察 相馬道子

文明開化にあらわれた日本人の開化意識 阪本藤彦

政黨の成立と當時の政治狀勢について 下村宗宏

早川徳次郎と地下鐵道 安倍章二

日本に於ける奇術の發達 酒井秀明

刀劍に對する思想の史的考察 難波行篤

東洋史專攻

苗族の研究 原田 鍊

西洋史專攻

ロマノフ王朝斷續に關する一考察 森 茂子

アンリ四世の宗教 鈴木昌子

——ナントの勅令まで——

ヘンリー八世の宗教改革 森田康子

エリザベス朝及び初期スチュアート朝に於ける 辻 多喜子

ヨーマンについて 辻 多喜子

英國に於て一七九一—九四の運河狂時代を現出し 熊谷一彦

た原因 熊谷一彦

サウス・カロライナのナリフィケーションについて 新保幸雄

アメリカに於けるピューリタニズムについて 島田幸子

中世修道院運動初期のフランチエスコ會について 稻森正子

ビザンチン帝國と第一十字軍の關係 堀田 晁

トーマス・モア「ユートピア」解釋の一考察 鳥澤和子

中世都市民精神の在り方 中路道子

ローザ・ルクセンブルグを中心にしたドイツ革命 津村清治

の一考察 大植茂治

ナチ黨の社會政策 中野利子

ワイマール共和制初期(一九一八—二三)におけ 森 隆文

る獨占資本の動向 岡安秀明

一九二〇年代半ばにおけるシュトレゼマンのソ

ヴィエト政策について

アメリカ南北戦争の原因について

大學院修士課程卒業論文題目

國史學專攻

中世禪林の隱遁思想と禪文化 金澤 弘

室町期東國における國人領主の研究 峰岸純夫

——特に上野國新田庄の岩松氏について——

東洋史專攻

東南アジア大陸における銅鼓系文化の發生領域 近森 正

スーフィズムに關する一史觀 石井道彦

黎聖宗のラオス出兵

木村宗吉

イブン・ハルドラン「歴史序説」の方法について

黒田壽郎

西洋史專攻

十八世紀啓蒙思想における倫理的ペシミズム

三村雄次郎

アメリカ獨立宣言にいたる植民地側主張の變遷について

中村 勤

公會政府宗教政策（恐嚇政治下の）

大村道夫

東洋史談話會

六月二十五日

於十二番教室

ラオスの王子、召溫猛について

木村宗吉君

十一月二十六日

於六番教室

苗族の諸相——特に宗教について——

原田 鍊君

イブン・ハルドウンの方法

黒田壽郎君

十二月十七日

於八番教室

初期スーフィズムとアル・フジュウリー

石井道彦君

民族學研究會

三十六年一月二十日

於二一三番教室

彙 報

川越市古尾谷神社のホロ祭

伊藤清司氏

沖繩、主として先島の巫女組織について

鎌田久子氏

（共にスライド使用）

編輯者言

本號は「史學科開設五十周年記念」と銘うちましたが、内容は普通號と特別變らぬものとなりました。御意見も多いとは思いますが、研究論文がぞくぞく集つておりますので、その發表を主とした結果であり、むしろ御同慶にたえません。前號に觸れた通り三月二十日の卒業式に是非間に合わせるべく、關係者一同必死の努力をいたしたつもりですが、印刷所の都合もあつて、結局發行がかなり遅れてしまいました。特に御協力下さった執筆者各位には、大へん御迷惑をかけたことをお詫びいたします。本年度は年間四冊刊行を目標として無理を重ね、誤植も少くなかつたことも汗顔の至りですが、次の三十四卷からはさらに編輯陣を整備して、内容外觀ともに面目を一新したいと念じている次第です。お氣づきの點を御遠慮なくお聞かせ下さい。

（清水潤三）